

年間指導計画			観点別評価の評価規準		
月	単元	時間	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4	広がる学びへ アイスブラネット	8	抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。→登場人物の心情や考え方が表れた語句に注意して、作品を読んでいる。	「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定のしかたなどを捉えている。→登場人物の言動から特徴を捉え、他の登場人物との関係を人物相関図にまとめている。	積極的に問いを考え、伝え合いながら吟味し、選ばれた問いの答えを考えることで、作品や作者の意図などに対する理解を深めている。
5	枕草子	7	現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。	「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。 ・「書くこと」において、目的や意図に応じて、社会生活の中から題材を決め、多様な方法で集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にしている。	進んで文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、学習課題に沿って自分ならではの季節感を表す文章を書くとしている。
6	多様な視点から クマゼミ増加の原因を探る	8	話や文章の構成や展開について理解を深めている。 →文章が六つの部分でできていることを理解し、線や矢印を用いてそれらの関係を整理している。	「読むこと」において、文章全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係などを捉えている。 ・「読むこと」において、文章と図表などを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈している。	積極的に文章と図表などを結び付け、学習の見通しをもって考えたことを話し合おうとしている。
7	言葉と向き合う 言葉の力 短歌に親しむ 短歌を味わう	7	本や文章などには、さまざまな立場や考え方が書かれていることを知り、自分の考えを広げたり深めたりする読書に生かしている。→言葉に対する筆者の考え方を捉え、本や文章には、筆者の考え方が書かれていることや、それに触れることで自分の考えを広げたり深めたりできることを理解している。 抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。→情景などを表す語句に着目して作品を読み深めている。	「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。→言葉に対する筆者の考え方について自分の考えをもち、話し合っている。 「読むこと」において、観点を明確にして短歌を比較するなどし、短歌の構成や表現の効果について考えている。 「書くこと」において、表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる短歌になるように工夫している。→学習した短歌の形式や表現の工夫を参考にして作っている。	進んで文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、今までの学習を生かして考えている。 進んで短歌の構成や表現の効果について考え、学習の見通しをもって短歌を創作しようとしている。
9	人間のきずな ヒューマノイド 字のない葉書	10	抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 →登場人物の言動や情景を表す語句に着目し、それらが作品に与える印象を述べている。	「読むこと」において、登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈している。→登場人物の言動から人柄や心情を読み取り、それらが話の展開や作品の印象にどう関わるかを捉えている。	粘り強く登場人物の言動の意味について考え、学習課題に沿って作品の印象を伝え合おうとしている
10	論理を捉えて モアイは語る	8	意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。→筆者の意見（主張）がどのような根拠によって支えられているかを理解し、その根拠が適切かを吟味している。	・「読むこと」において、文章の構成や論理の展開について考えている。→文章全体の構成を捉え、意見と根拠の結び付きや論の進め方を吟味している。 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。自分の知識や体験と重ね、筆者の主張に対する自分の考えを文章にまとめている。	粘り強く論理の展開について考え、学習の見通しをもって筆者の主張に対する自分の考えを文章にまとめようとしている。
11	いにしへの心を訪ねる 源氏と平家 扇の的	8	作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。→漢語を交えた独特の調子とリズムを捉えて朗読している。 ・現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。 ・作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。 →古典の文章独特の調子やリズムを意識して朗読している。 ・現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。→与一や義経の言動、扇の的を射落とした後の人々の反応に着目し、古人のものの見方や考え方を捉えている。	「読むこと」において、登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈している。→「扇の的」での与一の言動や「弓流し」の場面での義経の言動の意味について考え、作品を読み深めている。	進んで古典に表れたものの見方や考え方を知り、学習課題に沿って朗読しようとしている。 進んで登場人物の言動の意味について考え、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。

12	仁和寺にある法師	4	<ul style="list-style-type: none">・作品の特徴を生かして朗読するなどして、古典の世界に親しんでいる。→古典の文章独特の調子やリズムを意識して朗読している。・現代語訳や語注などを手掛かりに作品を読むことを通して、古典に表れたものの見方や考え方を知っている。→現代語訳や語注などを手掛かりにして、法師の言動やそれに対する作者のものの見方、考え方を理解している。	<ul style="list-style-type: none">・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。→法師と同じような経験がないのを踏まえて、考えたことを話し合っている。・「書くこと」において、伝えたいことがわかりやすく伝わるように、段落相互の関係をなどを明確にし、文章の構成や展開を工夫している。→文章の構成を工夫して、古典の登場人物について論じる文章を書いている。	積極的に考えたことを知識や経験と結び付け、学習の見通しをもって登場人物について論じる文章を書こうとしている。
1	価値を知る 君は「最後の晩餐」を知っているか	6	<ul style="list-style-type: none">・意見と根拠、具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。→筆者が、どのような例示（具体）を基に、「最後の晩餐」を「かつこいい。」（抽象）と述べているのかを理解している。・情報と情報との関係のさまざまな表し方を理解し使っている。→二つの文章を比較し、それぞれの特徴や共通点・相違点を表に整理している。	<ul style="list-style-type: none">・「読むこと」において目的に応じて複数の情報を整理しながら適切な情報を得て内容を解釈している。→二つの文章に書かれていることを比較したり、関係づけたりしながら、それぞれの文章が書かれた目的や意図を考えている。・「読むこと」において、観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えている。→文章の構成や表現の特徴について、二つの文章を比較して発見したことを発表している。	粘り強く観点を明確にして文章を比較し、今までの学習を生かして考えたことを文章にまとめようとしている
2	表現を見つめる 走れメロス	8	抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。→作品中の漢語を和語に置き換えると、印象がどのように変わるかを考えている。 抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して語感を磨き語彙を豊かにしている。→「愛」「正義」などの抽象的な概念を表す言葉に着目し、詩の中での意味を考えている。	<ul style="list-style-type: none">・「読むこと」において、登場人物の言動の意味などについて考えて、内容を解釈している。→「メロス」や「王」の言動に着目して、人物の考え方や心情の変化を読み取っている。・「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。→「メロス」の行動や考え方で共感できたところ・できなかったところを、自分の知識や経験と結び付けて考えている。・「書くこと」において、根拠の適切さを考えて説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりするなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。→登場人物の人物像や表現のしかたなど、観点を明確にして作品の魅力を文章にまとめている。	粘り強く登場人物の言動の意味などについて考え、学習の見通しをもって作品の魅力を文章にまとめようとしている。
3	鍵	2	抽象的な概念を表す語句の量を増すとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。	「読むこと」において、詩を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。→自分の知識や経験と付けて、作者のものの見方について考えている。	進んで詩を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、学習課題に沿って作者のものの見方について話し合おうとしている。
通年	漢字 文法 書写		1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち350字から450字程度までの漢字を読む。また、学年別漢字配当表に示されている漢字を書き、文や文章の中で使える。 文の中の文の成分の順序や照応、文の構成などについて考えている。 また、単語の活用について理解し、助詞や助動詞などの働きに注意している。 漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解して読みやすく早く書いている。また目的に応じて楷書・行書を選んで書いている。		粘り強く漢字の習得や文法の理解、書写の上達に取り組もうとしている。
主たる評価材料			授業観察・課題提出・ワークブック・ワークシート・定期考査・小テスト・発表・スピーチ・作文・作品	授業観察・課題提出・ワークブック・ワークシート・定期考査・小テスト・発表・スピーチ・作文・作品	授業観察・課題提出・ワークブック・ワークシート・定期考査・小テスト・発表・スピーチ・作文・作品